

学 園 報

No.53

富山国際学園 URL http://www.tii.ac.jp/	富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/
富山国際大学 URL https://www.tuins.ac.jp/	社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/
富山短期大学 URL https://www.toyama-c.ac.jp/	社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/
富山国際大学付属高等学校 URL https://www.tuins-h.ed.jp/	

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
TEL/076-436-5139
FAX/076-436-5444

二つの偉業



理事長
金岡 克己

新型コロナウイルスに続く、ウクライナ侵攻による混乱。今またパレスチナで、出口の見えない武力衝突が起き、世界の将来に暗い影を落としています。世相の反映でしょうか、ここ1-2年、後ろ向きのニュースが多いと感じます。実際、放映時間に基づくTVニュースランキングを見ると、明るい話題の方が少ないことに気がきます。

そうした中、2023上半期（1-6月）のランキング総合トップは、「侍ジャパン、3大会ぶりにWBC制覇」でした。今回は、明るい話題として、2023年9月、10月に偉業を達成した、MLBの大谷翔平選手と将棋の藤井聡太八冠について触れてみたいと思います。

大谷翔平選手は、投手・打者を兼ねる二刀流として日本球界で活躍、2018年からはMLBのエンゼルスに所属し、数々の記録を打ち立てています。2021年にアメリカンリーグMVP、2022年には投手としての規定投球回数（162）、打者としての規定打席数（502）を同時に達成するという前人未踏、超人的な快挙を成し遂げました。

2023年春のWBCでは、アメリカとの決勝戦の最終回到に登板。チームの同僚でMVP3度を誇る最強打者マイク・トラウトを三振に取りゲームセット。まるで映画のシナリオと評判を呼びました。10月初旬にはアメリカンリーグのホームラン王が確定しました。

日本人として、最も難しいとされるMLBタイトルがホームラン王です。打率などと違い、体格、パワーに劣る日本人には無縁とされていました。また、レベルの高い現代野球では、二刀流そのものがほぼ不可能とされています。100年前に大活躍し、野球の神様と称されるベーブ・ルースを超える「unicorn」、唯一

無二と呼ばれる所以です。

大谷のために「大谷ルール」が新設され、今年度からMLB全30球団が相互に対戦する試合日程に変更されるなど、日本人という枠を超えた圧倒的な存在感を放っています。

藤井聡太八冠は、9月に王座戦に挑戦、奪取し、将棋の全8大タイトル同時制覇という偉業を達成しました。14歳2ヵ月中学生で、史上最年少プロデビュー、現在21歳。6割超えで一流、6割5分でタイトル戦とされる通算勝率は8割3分に達し、19回連続でタイトル戦に勝利するという離れ業を演じています。

藤井八冠が登場し、将棋界にブームが到来しています。AIの導入で、アマチュアにも形勢が数値で分かるようになり、将棋を指さないファン「観る将」が増えています。将棋のタイトル戦は全国を巡回します。藤井八冠が選んだ、地方の食事やおやつがクローズアップされ、すぐに売り切れるという経済効果も生み出しています。

大谷翔平選手、藤井聡太八冠に共通する賛辞は、「マンガ超え」でしょう。二人の偉業を事前にマンガに描こうとしたら、あまりに現実離れしており、企画段階でボツになるという意味です。藤井八冠の指し手には「AI超え」の異名もあります。そして、もう一つの共通点は、反省しつつも常に前を向き、より高いレベルを目指す姿勢です。

一般の人が想定できない高みに達し、社会に明るい話題を提供し続けているお二人ですが、その弛まぬ努力、爽やかで謙虚な姿勢は、個人、法人を問わず見習いたいところと思います。

CONTENTS

□二つの偉業 理事長 金岡 克己 1

□特集1 大学コンソーシアム富山 令和5年度「富山県高大連携セミナー」を開催しました ... 2~3

□特集2 令和5年度 第3回呉羽キャンパス合同大学祭開催 Making Our Way!!~新しい道を見つける、乗り越える~... 4~5

□令和5年度部門別学生・生徒・園児数等 5

□令和4年度決算及び財務の状況 6~7

□学園NEWS 8

大学コンソーシアム富山 令和5年度「富山県高大連携セミナー」を開催しました

2023（令和5）年11月1日（水）、今年度は富山国際大学が主幹校を務め、「高等学校と大学等における教育の連続性や、生徒・学生の学力、意欲の向上等について議論を行うとともに、教職員間の交流と連携を図る機会とし、相互の理解を深める」ことを目的とし、大学コンソーシアム富山 令和5年度「富山県高大連携セミナー」を開催しました。県内高等学校等教職員、県内高等教育機関教職員など対面、オンライン合わせて約120名が参加しました。

参加者からは「次年度も同様のテーマでお願いしたいほど刺激的なご講演でした。特に高校での実践は興味深く拝聴させていただきました。」「大学や高校でどのように生徒が使用しているか、またどんな部分に興味があるのかなど知ることができ、非常に勉強になりました。」「自分の今後の指導について考えるととても良い機会になりました。高校でものすごく進んだ指導をされていることに衝撃を受けました。」などの感想が寄せられました。

【令和5年度富山県高大連携セミナー】

日 時：2023（令和5）年11月1日（水）13:30～16:00

形 式：対面形式（アイザック小杉文化ホール ラポール）及びオンライン形式

テーマ：「教育現場における Chat GPT 等生成 AI の取扱い」

内 容：

○基調講演「大学現場における生成 AI の活用とその課題」

富山県立大学工学部情報システム工学科 教授 岩本 健嗣 氏

○事例発表

「創発と対話を目指す生成 AI の利用、未だ語り得ぬもの」

富山国際大学附属高等学校

情報科教諭、情報管理責任者、メディア・テクノロジー部顧問

富山国際学園情報教育研究センター教育研究員 橋本 知彦 氏

○パネルディスカッション

座長 富山国際大学・富山短期大学 学長 高木 利久

パネリスト 岩本 健嗣 氏、橋本 知彦 氏

以下は橋本教諭の発表内容です。

「創発と対話を目指す生成 AI の利用、未だ語り得ぬもの」

富山国際大学附属高等学校 情報科教諭 橋本 知彦

ChatGPT 3.5 のリリースから間もなく 1 年というタイミングで、富山県高大連携セミナーにて生成 AI の活用例を話すことになった。この 1 年の間、生成 AI の様々な可能性が世界中で議論されてきたが、IT に忌避感が強い教育界では、ニューヨーク市やイタリアなどに代表されるように、条件反射的な禁止や制限が先行したのは言うまでもない（後に撤回）。国際附属高校においては、2016 年ごろから深層学習を使った物体認識を部活や授業で扱ってきたこともあり、生成 AI についても積極的な利用に向けて水面下で準備を進めてきた。

高校での取り組みとして、まずメディア・テクノロジー部での実践例がある。今年の生徒の実践例として、画像生成AIであるStable Diffusionを使って目の前の風景を異なる色彩に置き換えてみたり、都市環境における音をフーリエ変換して何の音がしているのか同定したり、TikTokなどのダンス動画を姿勢推定してダンスノート（舞踊譜）を生成する研究などがある。また、1年生の情報の授業では、ノア・ハラリの『ホモ・デウス』やアニメ「Psycho-Pass」を題材にしながら、AIが社会秩序や人々の認知、判断にどのように影響を及ぼしているのかを考え、レポートにまとめさせた。3年生の授業では、対話型AIであるClaude 2を使って思考を深めた上でレポートを書かせたり、Kaggleのタイタニック号海難事故のデータを使って決定木分析を行うなどしてきた。今年のオープンハイスクールでも中学生がAIの仕組みを学んだ上で、TensorFlowを使って左右どちらの手を挙げているか判断させるモデルの構築に取り組んだ。この様に本校のAIの活用はChatGPT以前から始まっており、生成AIについても消極的になる理由はない。



本校の本格的なICT導入は10年以上の歴史があるが、新しいテクノロジーを導入する際、サイモンやフィッシャーに代表されるデザインの議論を常に下敷きにしている。新しいものだから取り入れるのではなく、「生成AIを取り入れた授業はどうあるべきなのか」を考え、導入前において何が問題なのか（問題の規定）と導入後にどう解決するのか（解の構築）を丁寧に組み立てる必要がある。現在起きているのは、人間対AIではなく、AIを使える人対使えない人である。また、生成AIの特性から、やりたいことがない人、問いを投げてもらって答えを出すだけの受験勉強的な人には過酷な時代が到来する。物事を問う力のある人がAIを使うことで、思考を深め、可能性をどこまでも切り開ける時代である。反対に、疑問を持ったり考えたりしない人はAIの可能性を信じることができず、自身の可能性を自ら閉ざしてしまう。生成AI、特に対話型AIを身近な存在として日常的に使用し、思考する力を伸ばすことこそが、生成AIを使った教育デザインであると考え、「創発と対話」を本校における生成AIのテーマとして掲げた。創発とは、生成AIを使ってこれまで考えもしなかった発想、予期しなかった新しい地平線を得られることを意味する。セレンディピティの概念に近い。一方的に知識を得るのではなく、機械と対話することで新しい知識を得ながら、洞察を深めることを期待している。これを実現するには、機械と対話する能力が必要でもある。適切なプロンプトを書けるように、5段階でスキル設定を行った。また、ハルシネーションなど生成AI特有の問題を学んだり、生成された文章を自分が書いたものと詐称してはならない倫理的項目も学べるようにした。

ChatGPTを使い始めてすぐに思いだしたのは、哲学者ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』であった。「語



りえないことについては、沈黙するほかない」という有名な言葉は、世界を規定しているのは言語であり、その言語の限界を指摘したものである。1兆とも言われるパラメーター数（語彙数）を学んだAIと得られる新しい洞察とは、どんなものだろうか。生成AIを使った言語活動により生徒が思考を深めるため、パターン・ランゲージとフッサーの本質観取を取り入れた生成AIの授業を考案している。「正義とは何か」など物事をどこまでも規定することで本質に迫ろうとした古代ギリシャ時代からの哲学問答を、現代の言語学、生成AIと融合させる試みである。本校では、2024年度入学生から生成AIを使った授業を開始する予定である。その成果を別の機会でご報告できれば幸いである。

令和5年度 第3回呉羽キャンパス合同大学祭開催 Making Our Way!! ～新しい道を見つける、乗り越える～

富山国際大学・富山短期大学 呉羽キャンパス合同大学祭実行委員会事務局

呉羽キャンパス合同大学祭は、富山国際大学と富山短期大学の相互交流により学生生活の充実を図るとともに、高校生や父母等にオープンキャンパスや就活セミナーを通じて、大学生活の様子を知ってもらうことを目的に企画され、今年で3回目を迎えました。

今年のスローガンは「Making Our Way!! ～新しい道を見つける、乗り越える～」に決定され、一般参加も可能として完全対面で2023（令和5年）10月14日（土）・15日（日）の両日に開催しました。

このスローガンには、「今までにない新しい大学祭を一から作りたい！全員で同じ方向を向いていこう！」という意味を込め、大学生と短大生全員が協力して一つの大きなイベントを作り上げて、来場者の方に活気のある大学祭を楽しんでもらいたいという強い想いが込められています。

両大学の大学祭実行委員は4月に初顔合わせをしてから、約6ヶ月の期間をかけて準備を進めてきました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類から5類となり、3年ぶりに制限のない大学祭を開催することができました。

体育館でのステージ企画や模擬店、各学科企画、就活セミナー、進学相談会など、様々な催し物が実施され、大勢の方にお越しいただきました。

特に体育館のステージ企画では、YouTuberの「フワちゃん」をゲストに呼び、トークショーには約700

人が来場するなど、熱気に包まれ多くの方がペンライトで盛り上げてくれました。

また、ダンス・軽音楽・吹奏楽・アカペラサークル等のステージ発表やのど自慢、西田地方保育園年長組による「よさこい」の演技や、豪華賞品が当たる抽選会も盛大に開催されました。

模擬店では、ゼミやクラス単位での出店に加えてキッチンカーも初出店し、大学祭に花を添えていただきました。

最後に合同大学祭に参加された学生、教職員、一般の方にアンケートを実施し、多くの方から高い評価と、来年も是非合同大学祭に参加したいという回答をいただきました。

大学祭を通じて近隣住民の皆様、学生の父母や、高校生など多くの方に両大学を知って貰う良い機会となりました。また、大学祭実行委員をはじめ様々な企画に参加していただいた両大学の学生・教職員の皆さんの努力と協力の賜だと思えます。

大学祭に関わった学生は、この半年間色々な苦労があったと思いますが、今年のスローガンでもある「Making Our Way!! ～新しい道を見つける、乗り越える」を達成することができたのではないのでしょうか。

この頑張りや経験は必ず学生自身の成長に繋がるとともに、呉羽キャンパス合同大学祭が新たな伝統として引き継がれていくことを確信しています。



フワちゃんと富山国際大学学生会



フワちゃんと富山短期大学学生会



模擬店 (クレープ)



模擬店 (肉巻きおにぎり)



子育て支援サークル



縁日



サークルステージ発表



大抽選会

令和5年度部門別学生・生徒・園児数等

2023 (令和5) 年5月1日現在 (単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員 (A)	1年	2年	3年	4年	合計 (B)	定員充足率 (B/A)	備考
大学	現代社会学部	490	114	122	111	121	468	95.5%	
	子ども育成学部	370	95	96	102	93	386	104.3%	
	小計	860	209	218	213	214	854	99.3%	
短大	食物栄養学科	160	66	81			147	91.9%	
	幼児教育学科	160	87	85			172	107.5%	
	経営情報学科	220	91	117			208	94.5%	
	健康福祉学科	80	23	30			53	66.3%	
	専攻科食物栄養専攻	30	9	12			21	70.0%	
	小計	650	276	325			601	92.5%	
高校	全日制普通科	750	298	262	270		830	110.7%	
幼稚園		110	3歳児 25	4歳児 23	5歳児 27		75	68.2%	
	総計	2,370					2,360	99.6%	

令和4年度 決算及び財務の状況

決算及び財務の状況

令和4年度の事業報告及び決算は、去る5月31日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、現代社会学部、子ども育成学部ともに入学定員を上回り、大学全体においても6年連続で収容定員を確保できました。その結果、当年度収支差額で118,925千円（R3 133,993千円）の黒字計上となりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなっています。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

短大

短大は、健康福祉学科において入学定員を下回ることとなり、短大全体では僅かに収容定員を下回りました。学生生徒等納付金収入の減少等により、当年度収支差額は△55,283千円（R3 31,414千円）と赤字となりました。少子化や全国的な4年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後さらに厳しさが増していくことが予想されます。

高校

高校は、入学定員を上回り、高校全体においても収容定員を確保できました。当年度収支差額は、21,055千円（R3 40,753千円）となり、前年度より黒字額が減となりました。

幼稚園

幼稚園は、全体では定員を下回りました。当年度収支差額は、△9,666千円（R3 △9,390千円）と赤字となりました。今後は、多様な保育ニーズに応えることにより、安定的に園児数を確保することが必要です。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,847百万円（対前年度比104百万円増）、事業活動支出合計が2,753百万円（同160百万円増）、以上のことから、事業活動収支は94百万円（同55百万円減）の黒字となりました。

収入増の主な要因は、①経常費補助金の増、②寄付金の増等によるものです。

支出増の主な要因は、人件費等が前年度に比べ増となったことなどによるものです。

この結果、令和5年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、令和3年度の前年度繰越収支差額△2,284百万円に、令和4年度の当年度収支差額42百万円を加え、△2,242百万円となりました。

資金収支計算書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	4年度予算	4年度決算①	前年度決算②	差異①-②
収入の部				
学生生徒等納付金収入	1,981,834	1,983,366	1,995,554	△ 12,188
手数料収入	39,452	33,926	37,721	△ 3,795
寄付金収入	11,503	16,820	3,885	12,935
補助金収入	609,541	639,553	607,395	32,158
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	36,887	22,169	23,658	△ 1,489
受取利息・配当金収入	2,320	1,359	1,758	△ 399
雑収入	102,092	126,247	57,229	69,018
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	454,555	417,325	460,960	△ 43,635
その他の収入	88,891	133,584	117,081	16,503
資金収入調整勘定	△ 605,960	△ 579,568	△ 533,385	△ 46,183
前年度繰越支払資金	1,062,117	1,062,118	940,047	122,071
収入の部合計	3,783,233	3,856,899	3,711,903	144,996
支出の部				
人件費支出	1,754,100	1,695,877	1,598,680	97,217
教育研究経費支出	668,329	584,020	534,433	49,587
管理経費支出	143,702	134,138	125,345	8,793
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	28,595	16,496	25,376	△ 8,880
設備関係支出	102,748	87,905	32,226	55,679
資産運用支出	4,512	339,151	339,770	△ 619
その他の支出	138,500	113,698	79,645	34,053
(予備費)	(0)			
資金支出調整勘定	△ 149,000	△ 199,502	△ 85,669	△ 113,833
翌年度繰越支払資金	1,076,247	1,085,116	1,062,117	22,999
支出の部合計	3,783,233	3,856,899	3,711,903	144,996

事業活動収支計算書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	4年度予算	4年度決算①	前年度決算②	差異①-②
教育活動収支				
学生生徒等納付金	1,981,834	1,983,366	1,995,554	△ 12,188
手数料	39,452	33,926	37,721	△ 3,795
寄付金	13,506	17,140	4,279	12,861
経常費等補助金	609,541	639,259	605,708	33,551
付随事業収入	36,887	22,169	23,658	△ 1,489
雑収入	102,191	137,756	63,489	74,267
教育活動収入合計(1)	2,783,411	2,833,616	2,730,409	103,207
人件費	1,758,100	1,710,986	1,606,915	104,071
教育研究経費	1,008,174	898,781	854,541	44,240
管理経費	147,251	137,927	129,917	8,010
徴収不能額等	2	0	0	0
教育活動支出合計(2)	2,913,527	2,747,694	2,591,373	156,321
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 130,116	85,922	139,036	△ 53,114
収入の部				
受取利息・配当金	2,320	1,359	1,758	△ 399
その他の教育活動外収入	0	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	2,320	1,359	1,758	△ 399
支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,320	1,359	1,758	△ 399
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 127,796	87,281	140,794	△ 53,513
特別収支				
資産売却差額	1	0	0	0
その他の特別収入	3,603	12,234	11,363	871
特別収入合計(8)	3,604	12,234	11,363	871
資産処分差額	5,600	5,289	2,358	2,931
その他の特別損失	1	529	50	479
特別支出合計(9)	5,601	5,818	2,408	3,410
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 1,997	6,416	8,955	△ 2,539
【予備費】(11)	(0)			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 145,293	93,697	149,749	△ 56,052
基本金組入額合計(13)	△ 49,391	△ 51,343	△ 52,894	1,551
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 194,684	42,354	96,855	△ 54,501
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,283,960	△ 2,283,960	△ 2,383,816	99,856
基本金取崩額(16)	0	0	3,000	△ 3,000
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,478,644	△ 2,241,606	△ 2,283,961	42,355
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,789,335	2,847,209	2,743,530	103,679
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,934,628	2,753,512	2,593,781	159,731

令和4年度学校法人富山国際学園財務分析について

令和4年度決算の財務分析によると、法人全体及び短大・幼稚園を除く各校では、経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要があるが、短期的な支払い能力(返済力)は特に問題なしと判断される。

事業活動収支差額比率(損益ベースでの収支状況)は学園全体では、0%以上であるが、短大・幼稚園がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**(人件費の収入に対するバランス)では、短大・高校・幼稚園が60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究費比率**(教育研究費の経常収入に占める割合)は目安とされる30%を高校は下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

積立率(安定的に経営を行う上での保有資産の状況)は79.7%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

流動比率(短期的な支払い能力)は193.9%と返済力には問題はない。

今後、本学園は教育活動の維持・向上及び短大などの施設老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれることを考慮すると、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

【参考】財務指標の意味

(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより)

- ①事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入】**
事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。
- ②人件費比率【人件費/経常収入】**
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。
- ③教育研究費比率【教育研究経費/経常収入】**
教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。
- ④積立率【運用資産/要積立額】**
運用資産=現金預金+特定資産+有価証券
要積立額=減価償却累計額+退職給付引当金+2号基本金+3号基本金
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要(保有すべき要積立額)に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。
- ⑤流動比率【流動資産/流動負債】**
流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

【主な財務指標】

(単位:千円)

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,847,209	2,753,512	93,697	3.3%	60.4%	31.7%	79.7%	193.9%
大学	1,207,208	1,069,487	137,721	11.4%	53.3%	30.4%		
短大	861,821	891,731	-29,910	-3.5%	60.0%	37.3%		
高校	689,446	662,411	27,035	3.9%	69.1%	25.3%		
幼稚園	83,711	93,193	-9,482	-11.3%	62.9%	48.1%		

活動区分資金収支計算書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

(単位:千円)

貸借対照表

令和5年3月31日

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	12,728,672	12,636,119	92,553
有形固定資産	7,306,895	7,516,282	△209,387
特定資産	5,420,452	5,118,511	301,941
その他の固定資産	1,325	1,325	0
流動資産	1,231,824	1,185,794	46,030
資産の部合計	13,960,496	13,821,913	138,583
負債の部			
固定負債	615,110	569,943	45,167
流動負債	635,231	635,512	△281
負債の部合計	1,250,341	1,205,455	44,886
純資産の部			
基本金	14,951,762	14,900,418	51,344
第1号基本金	14,756,183	14,705,850	50,333
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,579	13,568	11
第4号基本金	182,000	181,000	1,000
繰越収支差額	△2,241,607	△2,283,960	42,353
純資産の部合計	12,710,155	12,616,458	93,697
負債及び純資産の部合計	13,960,496	13,821,913	138,583

科目	金額	科目	金額
教育活動による資金収支		収入	
収入		借入金等収入	0
学生生徒等納付金収入	1,983,366	退職給付引当特定資産取崩収入	37,210
手数料収入	33,926	修学旅行費預り資産取崩収入	21,959
特別寄付金収入	16,820	預り金受入収入	786
一般寄付金収入	0	小計	59,955
経常費等補助金収入	639,259	受取利息・配当金収入	1,359
付随事業収入	22,169	過年度修正収入	335
雑収入	125,912	その他の活動資金収入計②	61,649
教育活動資金収入計①	2,821,452	借入金等返済支出	0
支出		第3号基本金引当特定資産繰入支出	11
人件費支出	1,695,877	退職給付引当特定資産繰入支出	39,140
教育研究経費支出	584,020	学園施設等充実引当特定資産繰入支出	300,000
管理経費支出	133,610	預り金支払支出	5,149
教育活動資金支出計②	2,413,507	修学旅行費預り金支払支出	21,959
差引③=(①)-(②)	407,945	小計	366,259
調整勘定等④	24,298	借入金等利息支出	0
教育活動資金収支差額⑤=(③)+(④)	432,243	過年度修正支出	528
施設整備等活動による資金収支		その他の活動資金支出計③	366,787
収入		差引④=(②)-(③)	△305,138
施設設備補助金収入	294	調整勘定等⑤	0
施設設備売却収入	0	その他の活動資金収支差額⑥=(④)+(⑤)	△305,138
施設整備等活動資金収入計⑥	294	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)⑦+⑧	22,998
支出		前年度繰越支払資金	1,062,118
施設関係支出	16,496	翌年度繰越支払資金	1,085,116
施設関係支出	87,905		
施設整備等活動資金支出計⑦	104,401		
差引⑧=(⑥)-(⑦)	△104,107		
調整勘定等⑨	0		
施設整備等活動資金収支差額⑩=(⑧)+(⑨)	△104,107		
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)⑪=(⑤)+(⑩)	328,136		

部門別事業活動収支計算書

(単位:千円)

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,983,366	935,596	675,470	371,490	810	0	特別収入の部	経常収支差額	(7)=(3)+(6)	87,281	132,300	△27,649	24,286	△9,990	△31,666		
		手数料	33,926	13,647	9,695	10,554	30	0		収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0	0	0	
		寄付金	17,140	4,291	12,620	38	191	0		0	その他の特別収入	12,234	6,911	2,049	2,766	508	0	0	
		経常費等補助金	639,259	141,358	137,003	284,000	76,898	0		0	特別収入合計⑧	12,234	6,911	2,049	2,766	508	0	0	
		付随事業収入	22,169	1,872	15,029	0	5,268	0		0	支出の部	資産処分差額	5,290	962	4,311	17	0	0	0
		雑収入	137,756	103,299	9,786	20,598	6	4,067		0	施設関係支出	528	528	0	0	0	0	0	
		教育活動収入合計①	2,821,452	1,200,063	859,603	686,680	83,203	4,067		0	特別支出合計⑨	5,818	1,490	4,311	17	0	0	0	
		人件費	1,710,986	604,094	515,993	474,761	52,327	27,811		0	特別収支差額⑩=(⑧)-(⑨)	6,416	5,421	△2,282	2,749	508	0	0	
		教育研究経費	898,781	364,653	320,671	173,420	40,037	8,879		0	基本金組入前当年度収支差額⑪=(7)+(⑩)	93,697	137,721	△29,911	27,035	△9,482	△31,666		
		管理経費	137,928	63,250	50,757	14,213	829	0		0	基本金組入額合計⑫	△51,343	△18,796	△25,372	△5,980	△184	△1,011		
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	当年度収支差額⑬=(⑪)+(⑫)	42,354	118,925	△55,283	21,055	△9,666	△32,677					
教育活動支出合計②	2,747,695	1,067,997	887,421	662,394	93,193	36,930	0	前年度繰越収支差額⑭	△2,283,960	△	△	△	△	△	△				
教育活動収支差額③=(①)-(②)	85,921	132,066	△27,818	24,286	△9,990	△32,623	0	翌年度繰越収支差額⑮=(⑬)+(⑭)+(⑯)	△2,241,606	△	△	△	△	△	△				
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	1,360	234	169	0	0	957	(参考)	事業活動収入合計①+(4)+(6)	2,847,210	1,207,208	861,821	689,446	83,711	5,024			
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0		事業活動支出合計②+(5)+(9)	2,753,513	1,069,487	891,732	662,411	93,193	36,690			
		教育活動外収入合計④	1,360	234	169	0	0	957		事業活動収支合計-事業活動支出合計-基本金組入前当年度収支差額	93,697	137,721	△29,911	27,035	△9,482	△31,666			
		借入金等利息	0	0	0	0	0	0											
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0		0									
教育活動外支出合計⑤	0	0	0	0	0	0	0												
教育活動外収支差額⑥=(④)-(⑤)	1,360	234	169	0	0	957													

富山国際大学

キャンパスの緑をヤギと守る



緑豊かな東黒牧キャンパスですが、春から秋にかけては雑草が増えます。2022年10月のヤギ飼育により、一週間で半径5m円内のクズやセイタカアワダチソウが食べつくされることが判明したため、今年は空き地を延長100mの柵で囲い、二頭のヤギ（タロウとハナコ）を5ヶ月にわたり飼うこととなりました。ところがハナコは、大学にやってきて1ヶ月も経たないうちに子供（ユキ）を産み、柵内を三頭で、ときにはタロウが柵外に出張して「除草」をしてくれたため、雑草は「餌」に、空き地は「のどかな牧場」に変身しました。一方で、ハナコは当初から風邪気味で、タロウは猛暑のため熱中症となり、ユキは皮膚病のため顔や耳の毛が薄くなるなど、獣医さんのお世話になることも度々でした。次年度は除草だけでなく、ヤギの健康や人への癒やしという点にも配慮して、より良い「大学でのヤギ飼育」を達成したいと思います。

富山短期大学

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプで学生が考案したお弁当を販売しました！

2023（令和5）年の8月と9月に開催された南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2023で専攻科食物栄養専攻の学生たちが考案・監修した「世界のおもてなし弁当」が販売されました。出展される作家の出身9カ国の料理を盛り込んだ国際色豊かなお弁当として2月から打ち合わせを行い、6月の試作会を経て、味・見た目・栄養などをしっかりと整えたお弁当に仕上がりました。お弁当は、最も多い来場者が見込まれる時期に一般販売され、大勢の方々に召し上がっていただきました。



富山国際大学附属高等学校

イスラエル世界Jr.水泳選手権に参戦



大上詩央里さん（33H）がイスラエルのネタニアで2023（令和5）年9月4日から9日にかけて開かれた世界Jr.水泳選手権に日本代表として出場しました。バタフライの3種目に出場し、予選を通過して準決勝に進出しました。しかし、準決勝では自分の泳ぎをすることができず、決勝には進めませんでした。大上さんは、「初海外レースでとても緊張したが、海外の選手はみなフレンドリーで気軽に話してくれて嬉しかった。次は国際大会の決勝で戦えるレベルの選手になりたい。」と語った。

大会成績

50mバタフライ	27秒47	14位	（富山県高校新記録）
100mバタフライ	1分00秒57	13位	
200mバタフライ	2分13秒20	10位	

北海道でのインターハイ、鹿児島での国体にも出場して大活躍した大上選手、今後は国際大会、五輪出場を目指してさらなる挑戦が続きます。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

年長組こども劇場 スタート！

2023（令和5）年12月2日（土）、年長組こども劇場を開催しました。この日に向けて、園での経験をもとにした「お話づくり」を重ねてきた子どもたち。飼育している『カブトニオイガメ』や、園庭のビオトープ内での『メダカとヤゴの関係』『秋の遠足体験』をお話に取り入れ、毎日楽しんでいる『おかしやさん』や『バスケット』などのごっこ遊びを結び合わせた「オリジナルのお話」ができました。劇中の効果音も自分たちで考え、自然物や空き箱を使って音作りを楽しんできました。当日は「メダカ、食べちゃうぞ〜！」などと役になりきって演じたり、自作の効果音に合わせて身体表現をしたり…。劇遊びを楽しむ子どもたちの姿に、大きな拍手が沸き起こりました。

